

平成27年10月7日

各位

会社名 株式会社リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号: 4591 東証マザーズ)
問合せ先 取締役執行役員管理部長 宮崎正是
TEL. 03-3440-3303

中小企業庁「ものづくり・商業・サービス革新補助金」採択のお知らせ

平成 26 年度補正、経済産業省・中小企業庁「ものづくり・商業・サービス革新補助金」について、平成 27 年 6 月 19 日に中小企業庁の委託を受けて業務を主管する東京都より採択内定の通知を受けておりましたが(平成 27 年 8 月 13 日発表の平成 28 年 3 月期第 1 四半期決算短信参照)、本日交付決定の通知を受けましたので、お知らせいたします。

これは、当社が計画した「Fc 融合タンパク質精製用の新規 RNA アプタマー樹脂の開発」が上記補助金事業の中の「画期的な試作品の開発」に該当するとして、補助事業として採択されたものです。

本事業は、抗体の精製用として当社が開発してきた IgG アプタマーとその技術を、新薬の標的として研究開発されている Fc 融合タンパク質の分離・精製に応用するものです。

本助成の採択により、本事業に係る経費の 2/3 を、5,998 千円を上限として受けることができます。

平成 27 年 9 月 30 日から平成 28 年 6 月 30 日までの助成期間中、商品化に連なる RNA アプタマー樹脂およびカラムの試作品を作製して製薬会社や大学等にサンプル提供し、研究用試薬および抗体・Fc 融合タンパク質の工業用の分離・精製剤としての商業化の可能性を評価、検討いたします。順調に進めば、約 2 年後には、開発した RNA アプタマー樹脂カラムを商品化できる見込みです。

尚、本カラムに用いる IgG アプタマーは、既に日本および米国で物質特許を取得しており、欧州でも成立を見込んでおります。

本事業は当社が有するアプタマー創薬に関する基盤技術である RiboART システムの幅広い用途、活用的一端を示すものですが、当社としては、主たる事業である自社でのアプタマー医薬の開発および共同研究の推進、特にライセンスや新規共同研究の実現に向けて、引き続き注力してまいります。

尚、本件補助金の収益計上は来期に見込んでおり、当事業年度の業績に対する影響はありません。

<用語解説>

Fc 融合タンパク質

IgG (免疫グロブリン) は抗原を認識する Fab 領域と Fc (定常) 領域とから出来ていますが、Fc 領域のタンパク質断片を組換え体タンパク質製剤等に結合させると、体内での動態等、医薬品としての性能向上に役立つことが知られています。そのため、既存薬や新薬に対して Fc タンパク質断片を結合させたバイオ医薬品の開発が世界的に行われています。

これまで、Fc 結合（融合）タンパク質の分離・精製は、Fc 部分に結合するプロテインAという既存樹脂を用いて酸性溶液で行われてきましたが、酸に弱いタンパク質では変性し活性を維持できない欠点があります。これに対して、当社の IgG アプタマーはFc 部分に特異的に結合し、マイルド（中性）な条件で分離・精製が可能であり、新たなコアー技術となる可能性があります。

RNA アプタマー樹脂カラム

内部に分離・精製用の IgG アプタマー樹脂を敷きつめたカラム（中空の筒）で、Fc 融合タンパク質を含む培養上澄を流し込むと、タンパク質がアプタマー樹脂に結合し、上澄中の他の成分と分離できます。

Fc 融合タンパク質と結合したアプタマー樹脂を特殊な溶液（中性）で洗うと Fc 融合タンパク質がアプタマー樹脂から離れ、高純度で精製することができます。